

平成27年度病害虫発生予察指導情報（ネギ：べと病）

平成27年7月15日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

7月上旬現在、ネギべと病の発生は平坦地ではほぼ終息に向かっていますが、中山間地の一部では発病が続いています。現在、本病の発生が見られるほ場では、今後の気象条件によっては発病が続く恐れがありますので、防除を徹底しましょう。

また、秋冬ネギで本病の発生が見られるほ場では秋期の発生（収穫前の発生）が懸念されるため、今後の防除計画を十分に検討しながら散布薬剤を選定しましょう。

2 情報の根拠

- （1）本年の現地白ネギほ場におけるべと病の発生は、梅雨入り直後の気象状況から一時停滞していたが、6月下旬以降気温が低く推移したため、例年発生の少ない中山間地域において発生量が多く、甚発生ほ場も散見されている。
- （2）本病は、15～20℃程度で降雨が続くと発病が多く、夏期の高温条件で発病が一時終息するが、今後の気象条件によっては、発病が続く恐れがある。
- （3）今春、県全域で本病が多発したことから、病原菌密度は高いと考えられ、秋期に多発する可能性が高い。

3 防除上注意すべき事項

- （1）発病後の蔓延は早いので発病前からの防除に努める。
- （2）ペンコゼブフロアブル600倍液、アリエッティ水和剤800倍液、ランマンフロアブル2,000倍液などを予防散布する。
- （3）発病を認めたら直ちに、リドミルゴールドMZ1,000倍液、フォリオゴールド800～1,000倍液、プロポーズ顆粒水和剤1,000倍液、フェスティバルC水和剤1,000倍液、レーバスフロアブル2,000倍液などを散布する。
- （4）同一有効成分及び同系統の有効成分を含む薬剤は連用しない。また、有効成分ごとの総使用回数及び収穫前日数に注意して薬剤を選定する（表1、表2）。
- （5）現在、秋冬ネギで本病の発生が認められるほ場では秋期の発生（収穫前の発生）が懸念されるため、今後の防除計画を十分に検討しながら散布薬剤を選定する必要がある。

表 1 ネギベと病の主な防除薬剤（平成 27 年 6 月 30 日現在の農薬登録内容）

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	有効成分	
アリエッティ水和剤	800 倍	収穫 3 日前まで	3 回以内	ホセチル	
アミスター20フロアブル	2000 倍	収穫 3 日前まで	4 回以内	アゾキシストロビン	
ジマンダイセン水和剤	600 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	マンゼブ	
フェスティバル C 水和剤	1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	ジメトモルフ	銅
フォリオゴールド	800～ 1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	メタラキシルM	TPN
プロポーズ顆粒水和剤	1000 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	ベンチアバリカルブ イソプロピル	TPN
ペンコゼブフロアブル	600 倍	収穫 14 日前まで	3 回以内	マンゼブ	
ランマンフロアブル	2000 倍	収穫 3 日前まで	4 回以内	シアゾファミド	
リドミルゴールド MZ	1000 倍	収穫 30 日前まで	3 回以内	メタラキシルM	マンゼブ
レーバスフロアブル	2000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内	マンジプロパミド	

表 2 有効成分ごとの総使用回数（平成 27 年 6 月 30 日現在の農薬登録内容）

有効成分名	総使用回数
アゾキシストロビン	5 回以内(粒剤は 1 回以内、水和剤は 4 回以内)
シアゾファミド	4 回以内
ジメトモルフ	3 回以内
TPN	4 回以内(土壌灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内)
銅	－
ベンチアバリカルブイソプロピル	3 回以内
ホセチル	3 回以内
マンジプロパミド	2 回以内
マンゼブ	3 回以内
メタラキシルM	5 回以内(種子への処理は 1 回以内、土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)